

利用者2000人突破

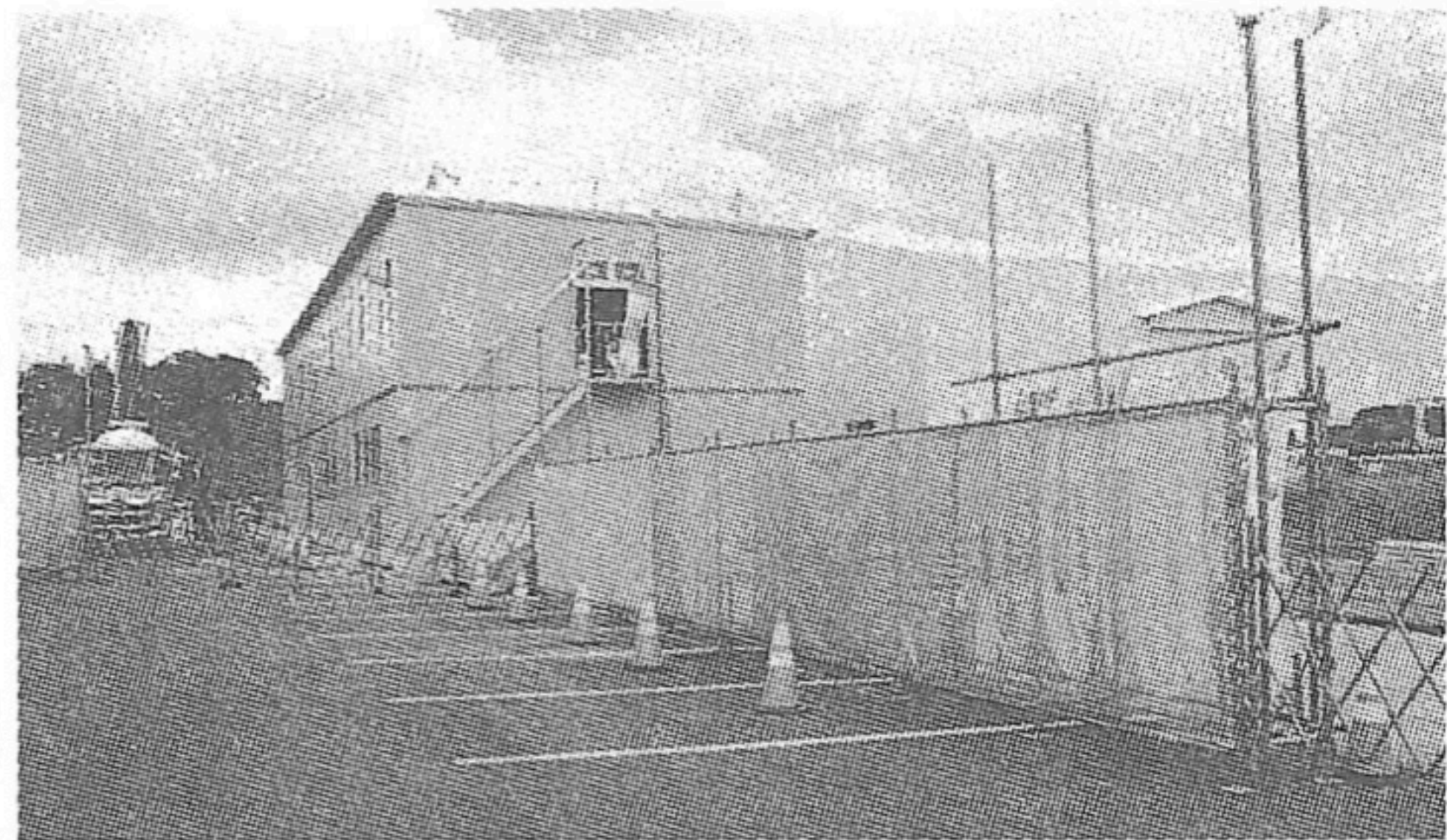
東北国際教育センター

年明けにグランドオープン

新宿泊棟、全天候型施設など拡充



岩手マイタック（盛岡市 橋本正彦代表取締役社長）が宮城県大郷町で運営する東北国際教育センター・シエットの利用者がオープンから2年半で2000人を突破し



建設中の宿泊棟と全天候型施設（右）

た。現在は宿泊棟の増設、全天候型研修施設の新設など施設の拡充を進めており年内に完成。年明けにもグランドオープンする見込みだ。

シエットは、技能実習生や特定技能入国者が日本語と建設技能を習得できる東北唯一の施設。13万平方メートルという広大な敷地に教室棟、宿泊棟、食堂、屋



玉腰センター長

外実技場を設け、2022年4月にオープンした。

日本語学習では一般的な日本語だけでなく現場で使用する道具の名称なども教え、技能講習では建設機械施工の締固め、掘削、積み込み、型枠、とび、塗装、溶接、コンクリート圧送など10職種に対応。さらに玉掛け、クレーンなどの免許を取得でき、すぐに現場で活躍できる即戦力を育成する。

建設企業から依頼を受けて1回に受け入れる外国人実習生は24人まで。1グループの平均は15人でこれまでに15グループが同施設を利用した。

建設を進めている新たな宿泊棟の収容人数は約30人で女性も宿泊できる。完成すれば既存の宿泊棟と合わせて60人程度の受け入れが可能になる。

新宿泊棟に隣接して設置した全天候型屋内研修施設は縦20メートル、横20メートルの面積400平方メートル、最高高さ9メートルのテント型で、換気が行き届いた内部では溶接、型枠、コンクリート圧送などさまざまな講習に対応できる。両施設とも12月中旬に完成する。

シエットについて玉腰辰巳センター長は「日本語学習から約10職種の技能講習までワンストップで行うことができる。今までの研修施設と全く異なる」と胸を張る。

建設業界の高齢化、人材不足に伴い外国人実習生は年々増加傾向にあるだけに、今後本格稼働する同施設がますます活用されそうだ。